



No.65

発行：令和4年1月31日
茨城県青年海外協力隊を育てる会
発行人：小川一成
編集：広報文化委員会
事務局：つくば市高野台3-6 〒305-0074
JICA筑波センター内
TEL 029(838)1111
印刷：合資会社おた

初の試み、オンライン壮行会

新型コロナウイルスの感染状況が第5波を迎えようとしている2021年7月20日、再開された隊員派遣の令和3年度1次隊 2名の壮行会がオンライン方式で行われました。

JICA筑波のスタッフの方たちによるオンライン会議システム"Zoom"を利用し、実現しました。

当日は来賓として茨城県営業戦略部国際渉外チームリーダー石寺様、JICA筑波センター渡辺所長、石森OV会新会長と前会長の大橋様(3次隊壮行会には仲摩事務局長)、更に県とJICA筑波センターのスタッフの方々、当会からは小松崎事務局長と理事の方々など大勢の皆様に参加いただきました。

来賓からは健康上の注意点など、OBからは経験談などの参考情報等々が話されコロナの感染が続く中、特に健康には気を付けてという事と力強い励ましの言葉が送られました。各隊員からは隊員数が少ないこともあり、たっぷりと時間をかけて協力隊応募のきっかけや任地での抱負などが話されました。

従来の対面型ではJICA研修員が出席して隊員と懇談する貴重な時間を持てたのが、今回はできなくて残念ですが参加者全員が話される方に集中でき、予定時間をオーバーしても話題が尽きない状況でした。

1次隊壮行会の様子



1年以上実施できなかった壮行会をどんな形であれ実施できたことは、育てる会として大変うれしい事です。

9月に予定していた2次隊2名の壮行会は緊急事態宣言下でもあり、オンラインでも開催しませんでした。

12月の3次隊の壮行会はオンラインで12月6日に実施できました。

その際にJICA渡辺所長から任国の感染状況などにより、派遣が決まった後に「待機」となることがあり、『現在2名が「待機」となっている』と説明がありました。

今後しばらくはこういう状況が続くと思われていますが、一日も早いリアル壮行会ができることと隊員の安全な活躍を祈念しています。

2021年度1次隊

渡邊史也 マレーシア 日本語教育「待機中」
安藤博堂 ルワンダ 自動車整備

2次隊

佐々木裕 マラウイ 理学療法士
田中 亮 カンボジア 水質検査「待機中」

3次隊

柴 将人 ベトナム 障害児・者支援
住谷菜槻 ウガンダ 野菜栽培

3次隊壮行会の様子



事務局から:1次隊、3次隊壮行会の様子はJICA筑波センターのホームページに記事が、3次隊壮行会の様子は当会ホームページにビデオが掲載されています。今後のオンライン壮行会に参加希望される会員の方は当会事務局までご連絡ください。



地域活動仲間とのあゆみ

初代事務局長 笠原岳夫

広報紙「つくばね」64号で育てる会の紹介をさせていただきましたが、今回はその他の活動を紹介します。

- ①ボーイスカウト：今から約40年前、地域への入門はボーイスカウトでした。少年が実社会で通用する「紳士Gentleman」として立派に成人するには「①学校教育」「②家庭教育」と同時に、その間「社会」という場での地域の理解者による「③社会教育」の部分が本人の成長にとって重要である事を学びました、その例がボーイスカウトです。また、スカウトは「スマート」であれ、という教義を私のモットーとして実践してきました。
- ②ライオンズクラブ：地域の発展を願って奉仕や親睦活動を行ってきました。仲間はボランティアとは云いませんが、盃を挙げては We Serve!!と大声で叫んで行動します。私が国際委員長の時には、ラオスの子供たちに、多目的ホールを建設、寄贈して交流しました。前項と合わせ西欧地域の社会活動には学ぶ価値があると思います。
- ③地域の「国際交流協会」や「日本語教室」、小学校等での「国際理解教育」等々の活動：現状の我が国が、例えばOECD諸国の中でそれなりの発言力（国家としてそれなりの地位）を確保/維持していくためには、先ず我が国の国民・市民一人ひとりの「国際力の強化/向上」が重要で、世界に通用する人材の育成を地域でも支援する必要性を感じています。

- ④ アフリカの現状：開発から取り残され援助を求めている最大の地域アフリカ約50カ国について、日本国政府は「TICAD」に現地の元首を招いて、首相が援助の金額を示しただけで援助は貧困の末端現場に届くものだと考えられますか？アフリカの経済的な自立を、現場に密着した開発で支援できるのは日本です。日本の援助ODAがアフリカの人民の実生活に寄り添って改善することができるし、その実務遂行のためには強力な現場に密着した民間NGOがしっかりサポートする事が条件だと思います。
- ⑤ ミクロネシアの諸国についての想い：私は我が国と同じ太平洋の島国、中でも南洋群島の諸国をたびたび訪問、駐在し職業訓練学校での指導や交流を続けてきました。戦前、日本が植民地支配をしていた当時の『南洋群島』地域、現在は独立しているミクロネシア地域の諸国について、私達は決して昔の事を忘れてはいけないと思います。彼らが世界の近代化に追いついて行けない等の問題があれば、私達が手を差し伸べてあげなければならないと思います。
- ⑥ 日中友好協会：地域の日中友好協会での活動にも参加してきました。私たちの目的は民主主義が守られる範囲の下で市民ベースでの相互理解の推進であり、現在の日本のありのままの市民生活を、より多くの中国の一般の市民の皆様を知っていただくための活動などを続けています。
- ⑦ SDGsについて：地球市民がかけがえのない地球を維持していくために取り組まねばならない重要な17個の達成目標があります。皆様と一緒に考えたい課題です。



ボランティアと地域のつながり

理事 小松崎千恵子

私がボランティアに興味を持ったきっかけは、娘が平成8年青年海外協力隊で中米のグアテマラに派遣されたことからでした。それまでの私は主婦業で過ごしていましたから、なぜ娘が海外で活動しようと思ったのかわからず、その時はさすがに焦りました。それでも、娘が「私は自分のしたいことを思う存分させてもらった。今度は世界のどこかにいる人たちのやりたいことを、小さな力でも手助けできればと思っている。海外で活動できるのは若いうちだから行かせてほしい。帰ってきたら、父さん達へのボランティアをするから」と言われ、勤めていた会社や周囲の方たちの応援もあり、任国に旅立ちました。

その頃は通信と言えば電話か手紙しかなく、現状がわからず心配したのですが、茨城県にはJICA筑波センターがあり、任国の様子は何となくわかり安心していました。

2年で帰国するはずが2年間の延長が認められ、帰国を楽しみにしていた私は2度の任国訪問をしました。娘から「母さんも地域の人たちのために何かやってみたら」と背中を押され、知人の紹介でボランティア活動を始めました。一つの活動では物足りず、多いときは13ものサークルで毎日のように家を空けていました。主人から「人のために活動するの



「ひなめぐり」に保育園の園児たちが訪問

は良いが自宅のボランティアは大丈夫か」と言われたこともありましたが、さすがに高齢者となった今は5サークルで活動しています。

子育て支援・高齢者の見守り・障がい者施設訪問・NPOの活動等々、地域とのつながりは広範囲にわたりますが、自分も楽しみながら活動できることは、ありがたいと考えています。

しかし、新型コロナウイルス感染症が流行してからもう2年になりますが、今まで考えていなかった課題も見えてきました。幼い子供たちが家族の介護をしなければならないという所謂ヤングケアラー問題、児童虐待の増加、働く場所が無いので生活苦に陥っている母子家庭など、どうして子供にばかり負担がかかる世の中になっているのか。考えると悲しくつらくなります。私たちのようなボランティアが活動しなくてもよい時代が来るといいのですが……。

でも、写真のような子どもたちの笑顔が見られるよう私ももう少し頑張ろうと思います。



ハロウィンで仮装した親子が商店を訪問

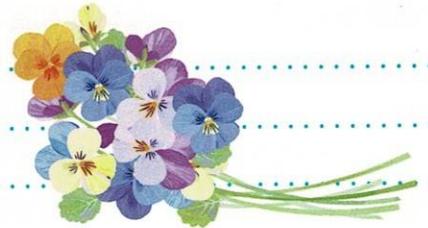
これまで・これからの事業について

■ これまでの事業報告

令和3年	4月10日(土)	令和3年度第1回運営委員会	JICA筑波センター
	4月29日(木)	令和2年度事業決算監査	石岡市
	5月1日(土)	第2回運営委員会	コロナ感染症防止のため中止
	6月3日(木)	令和3年度第1回理事会	JICA筑波センター
		令和3年度通常総会はコロナ感染症防止のため中止し、書類審査とすると決定	
	6月5日(土)	第3回運営委員会	コロナ感染症防止のため中止
	7月3日(土)	第4回運営委員会	コロナ感染症防止のため中止
	7月20日(火)	令和3年度1次隊2名 知事表敬訪問・壮行会	オンライン方式 JICA筑波センター 広報紙「つくばね」64号発行
	9月4日(土)	第5回運営委員会	コロナ感染症防止のため中止 2次隊2名 知事表敬訪問・壮行会 中止
	10月2日(土)	第6回運営委員会	コロナ感染症防止のため中止
	11月19日(金)	第2回理事会	JICA筑波センター
	12月4日(土)	第7回運営委員会	コロナ感染症防止のため中止
	12月6日(月)	3次隊2名 知事表敬訪問・壮行会	オンライン方式 JICA筑波センター

■ これからの事業予定

令和4年	1月8日(土)	第8回運営委員会	JICA筑波センター
	1月下旬	広報誌「つくばね」	65号発行
	3月5日(土)	第9回運営委員会	JICA筑波センター



事務局だより

会員状況 ()は家族会員

区分	令和3年3月末現在	令和3年12月末現在
個人	97 (2)	85 (2)
団体	20	19
計	117 (2)	104 (2)

編集後記

新型コロナもようやく落ち着きが見え始めた矢先に「オミクロン型」騒ぎが起きてしまい、当会の活動もままならない状態が引き続いています。

それでも、JICA筑波スタッフの方々のご協力でオンライン壮行会ができるようになり、徐々にではありますが本県からも協力隊員の派遣が始まっています。

“つくばね”の発行が元通りになるには難しい状況ですができるだけ工夫して皆様に情報を届けたいと考えています。

【事務局からお願い】記事を投稿したい方は事務局までご連絡ください。(内容は問いません)

なお、本年1月26日、当会設立25周年となりました。多くの方々のご協力のたまものです。ありがとうございました。